

## 「第20回ワカサギに学ぶ会」に出席して

真野修一・中島美由紀

平成28年1月15日、秋田県秋田市にある明德館ビル2階カレッジプラザ大講義室において「第20回ワカサギに学ぶ会」が開催されました。今回は秋田県の主催で、水産総合研究センターの他に全国11都道府県から約50名が参加しました。

会は秋田県水産振興センターの高田芳博主任研究員の司会により進行されました。初めに、同センターの大竹敦所長から主催者代表としての挨拶がありました。その後、同センターの山田潤一資源部長が座長となり、5道県の公設試験研究機関から6題の話題提供がありました。概略は以下のとおりです(写真1,2)。

### 話題提供



写真1 開会の挨拶をする大竹所長

#### ① 洞爺湖のワカサギ・サクラマス・ヒメマスの近年の産卵親魚の生態と炭素窒素安定同位体比分析による餌資源の推定

中島美由紀

(北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場)

洞爺湖ではワカサギ、サクラマス、ヒメマスの3種は主要な漁業対象種について、安定的利用を目指して、産卵親魚と湖水環境のモニタリング調査を2012～2014年に行った。同時に餌生物と3種の炭素窒素安定同位体比を分析し、3種の餌資源の推定を行い、その結果を報告した。



写真2 会場の様子

#### ② 網走湖におけるワカサギ仔魚の出現密度と体長組成から推測した産卵状況

真野修一

(北海道立総合研究機構 さけます・内水面水産試験場)

網走湖は北海道東部に位置する汽水湖であり、ワカサギの漁獲量は道内で最も多く2000年以降は年間130～330トンで推移した。また、ワカサギの増殖用種卵は全国各地へ出荷されており、1998～2012年まで20～43億粒を採卵し出荷したが、2013～2015年は6～12億粒と激減した。出荷用種卵のための採卵数の減少原因究明の一環として1995～2015年の仔魚の出現密度と成長に関する調査の結果をもとに、年別の湖内における自然産卵状況を推測した。

その結果、2013年以降は網走湖でのワカサギ漁獲量が大きく減少しなかったにもかかわらず種卵供給のための採卵数が減少したのは、採卵が行われる4月上旬から5月上旬に河川へ遡上する親魚量が減少したためと推測された。

#### ③ 霞ヶ浦北浦におけるワカサギ漁業の状況及び試験場の取組について

所 史隆 (茨城県水産試験場)

ワカサギは、霞ヶ浦北浦の水産業にとって最も依存度が高く、重要な資源だが、資源変動が大きく、その資源動向は漁業者や水産加工業者の最大の関心事である。これまで、茨城県水産試験場では漁期前の漁獲試験を中心に資源状況の推定を行い、情報の提供を行ってきた。近年ワカサギの

資源変動要因も明らかになりつつあり、漁期中の漁獲状況の推定も可能になり、構築された体系的な調査研究による情報提供の体制を構築できた。水産関係者へ提供する情報の精度向上と早期化を目的として、ワカサギ資源動向モデルの構築に取り組んでいるほか、再生産時期の推定が紹介された。

**④ 群馬県におけるワカサギの放射性物質に関する調査**  
 湯浅由美 (群馬県水産試験場)

東日本大震災に伴う福島第一原発事故に起因し、ワカサギから食品衛生法の基準値 (100 Bq/kg) を超える放射性セシウムが検出された赤城大沼と榛名湖では、県の要請に基づく出荷自主規制が続いていた。2015年8月、ワカサギの放射性セシウム濃度が安定的に基準値を下回っていることから、国との協議を経て県は出荷自主規制を解除して、9月1日に持ち帰り可能なワカサギ釣りを解禁した。現在も赤城大沼と榛名湖のワカサギ等の放射性セシウム濃度の測定を継続中である。生息生物の放射性セシウム濃度は当初急激に減少し、その後長い時間をかけて徐々に減少していくとされ、今後もモニタリング調査を行う (写真3)。



写真3 湯浅さんの発表の様子

**⑤ 河口湖におけるワカサギ資源の復活 (短報)**  
 谷沢弘将 (山梨県水産技術センター)

河口湖では1985年以降断続的に不漁が続いていた。2010年から2015年までのワカサギの漁獲状況と、2015年の好漁について、その要因を初期餌料のミジンコの発生量から推察した。今後、3月中の早期放流の実施や越冬魚の出現が資源に与える影響なども検討していきたい (写真4)。

**⑥ 八郎湖におけるワカサギの産卵場**  
 高田芳博 (秋田県水産振興センター)

八郎湖は秋田市の北方約30kmに位置し、八郎潟の干拓事業によって残存した淡水湖である。ワカサギ、シラウオ、



写真4 谷沢さんの発表の様子

コイ、フナ類等が漁獲され、ワカサギは全漁獲量の90%以上を占める最重要魚種で、その漁獲量は200~300トンで安定している。その八郎湖におけるワカサギの産卵場所の解明のため、ワカサギ卵の分布状況に関する調査を湖に流入する数河川で行った。

話題提供のあと事務局から来年度は神奈川県が幹事となって開催されることが提案され、拍手により承認されました。これを受けて、芦之湖漁業協同組合の結城陽介職員から開催に向けての挨拶をいただきました。

閉会後は会場を移して意見交換会が行われました。会では引き続き山田資源部長が進行役となり、大竹所長からのご挨拶と乾杯のご発声により始まりました。その後、石焼桶鍋など秋田ご自慢のお料理や地酒などをいただきながら、会議の場とは違った楽しい時間を過ごしました。芦之湖漁業協同組合の福井達也副組合長からの中締めのご挨拶と一本締めの後、まだ話し足りないこともある人たち同士でそれぞれ次のお店へと足を運んでいました。

(道東内水面室 まの しゅういち)  
 (内水面資源部 なかじま みゆき)